



すりぼん
▲刷板、ラベル



▲みかん取りビクと鋏



▲天秤棒とカツギカゴ、ショイビク(中央)

中央にあるのは昭和30年頃まで使われていた藁製のカゴ。
みかんを傷めやすいため竹製のものに替わった。



▲テッポウカゴ

寄贈資料の中から

みかん収穫用具

伊豆半島に位置する西浦、内浦、静浦地区では、温暖な気候と日当たりのよい山の斜面がみかん栽培に適しており、静岡県内でも有数の温州みかんの産地です。古くから小みかん（紀州みかん）が栽培されており、明治に入って温州みかんの本格的な栽培が始まりました。

みかんを収穫する時は、鋏で一つずつ枝を残さないように切り取ります。枝を残すと、他のみかんに傷がつくからです。肩に掛けたみかん取りビクに切り取ったみかんを入れ、これが一杯になると、もっと大きなショイビクやカツギカゴに集めていきます。斜面で栽培されているため、昔は、カゴ一杯に収穫したみかん

を、天秤棒で担いだり、テッポウカゴで背負ったりして運びました。また、馬も使われていました。初めの頃は、ショイビクのようなタワラアミのカゴが使われていましたが、素材が柔らかいための中のみかんが圧迫されて傷みやすく、後に竹製のカツギカゴへと替わりました。カツギカゴには、みかんが傷まないように布で内張りが施されています。そして、昭和40年頃から、樹脂製のコンテナが普及し現在に至っています。

刷板は、出荷する木箱に出荷先・産地・等級などの表示を入れる金属の板で、墨を湿らせた布で型抜きをします。東京神田の間屋の他、地方市場へも出荷されました。

資料館の調査ノートから⑮

西浦江梨の雨乞い

杉山博子さん・大川君江さん・杉山栄一さんの話

今回は、10年前まで西浦江梨で行われてきた雨乞いについて、杉山博子さん（大正14年生まれ）・大川君江さん（昭和2年生まれ）・杉山栄一さん（昭和9年生まれ）から聞き取りを行った内容をご紹介します。

1. 10年前の江梨の雨乞い

雨乞いは、杉山博子さん・大川君江さん・大川衣子さんの3人が、夏の5日間、夕食後から江梨の浜の船揚場に座り、海の方を向いて行った。

その年の夏は長く雨が降らず、みかんの木が乾いて大変困ったので雨乞いを行うことになったが、雨乞いは10年ぶりだったので、経験者に教えてもらい、代々伝えられてきたお経の紙を見ながら唱えることにした。

まず、雨を降らせる8体の竜王さんと呼び出すために、8つのコップに水を入れて盆に載せ、海の方に香花とともに供えた。それから、念仏で使う鉦を叩きながら、以下のお経を唱えた。

雨乞

水を供えて祈ります

八大竜王

なんだ竜王、ばつなんだ竜王、
しゃから竜王、わしうき竜王、
とくしゃか竜王、あーなんだたった竜王、
まーなし竜王、うーはつら竜王、

雨乞経

としとそろそろ、とりとりそろそろ、
なぎやなんー、じゃばじゃばじゃば、
じゃぶじゃぶじゃぶ、ぶじりぶじり、
たいるんようてん、そらいーす、
えんぶーしゅんのう、しゅうたいう、
しゃろしゃろしゃろ、しりしりしり、すりよすりよ
すりよ

(八大竜王と雨乞経を続けて何度も繰り返す)。



杉山博子さん・大川君江さんによる雨乞いの再現
(平成20年11月6日、江梨公民館にて)

5日間夢中で雨乞いを行った。すると、5日目の雨乞いを終えて家に着いた後に、雨がじゃぶじゃぶ降ってきた。それは本当に嬉しくて、一心に祈るということはこんなにも効くものかと思った。

雨のお陰でみかんの木に十分水が入ったので、翌日には、現在の老人憩いの家でお礼の念仏を唱えた。

2. 江梨の土地柄と雨乞い

西浦の地区の中で、近年まで雨乞いが行われていたのは江梨だけであり、他の地区の話は聞かれない。

江梨で雨乞いが行われてきた背景には、他の地区と比べて水の少ない土地柄があったと思われる。

江梨は、昔から川の水量が少なく、田がほとんど発達しなかった。自分達の子供の頃、田が珍しくて、古宇の田の周りを歩かせてもらった思い出がある。

江梨では、第二次世界大戦前までは、田で水稻を作る代わりに、畑で陸稲やそば・あわ・きつまいもなどの雑穀を作っていた。昔の人の話では、雨乞いは、陸稲に雨が降ってほしいときに行ったとのことである。

第二次世界大戦後は、みかんが良い値で売れるということで、畑が専らみかん栽培に用いられるようになり、雨乞いもみかんのために行われるようになった。

また、西浦の他の地区でも、かつては寺などで雨乞いが行われていたが、海の方を向くという話は聞いたことがないので、海の方を向くのは江梨だけではないかと思われる。

江梨では、雨乞い以外の念仏を唱えるときにも海の方を向いた。念仏は、10数年前に仲間が少なくなりやめたが、かつては人数も多く盛んに行われていた。現在も、お盆の送り火と数珠繰りは続けていて、送り火は、海の方を向いて松明を燃やしている。



昭和53年夏の雨乞い3日目（杉山栄一さん撮影）

3. 今後の江梨の雨乞い

今年の夏は、雨が降らず乾燥してかなり困ったので、雨乞いのことを知っている人達から行ってほしいと言われたが、全国的に大きな水害が多かったので、それを考慮して行わなかった。

江梨では現在、観音講を始めた人達がいるので、今後雨が降らないときには、雨乞いも行われることもあるかもしれない。

駿河湾の漁

足立 実さんの漁話

ずしゅうちゅうらしんけいしよくず
豆州内浦真景縮図きさい
希齋の絵(2)

これまで、絵師・希齋が描いた「豆州内浦真景縮図」に関係したことを話してきたが、今回は希齋が描いた絵を幾つか紹介したい。

先にもお話したが、希齋は西伊豆から沼津に来て、口野の名主である足立格右衛門義保の弟である足立春島が企画したこの画集の絵を描いている。

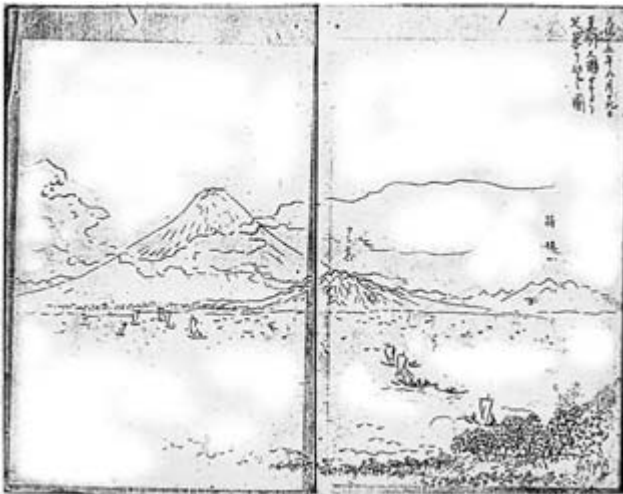
私の手元には複写で画集の第三巻、第四巻があるが、この内の第三巻には静浦の絵が多く描かれている。

第三巻の図集の最後に「天保十有五甲辰八月朔日ヨリ同月廿四日ニ終 以上三十六景」と記されていて、この間、希齋が沼津に逗留して描いたものであることが判る。

画集は希齋が船で海から陸地を望むという手法で、遠くは富士、箱根、天城の山々、駿河湾に浮かぶ船などの景色、また高所から魚の動きを見張り、知らせる魚見小屋等が描かれ、当時の漁村の様子を知ることができる貴重な資料である。

魚見小屋は、現在、歴史民俗資料館に全体の様子と内部の様子を表した模型が展示されている。

また絵は大瀬崎から内浦、静浦、我入道、狩野川といろいろな場所から描かれている。



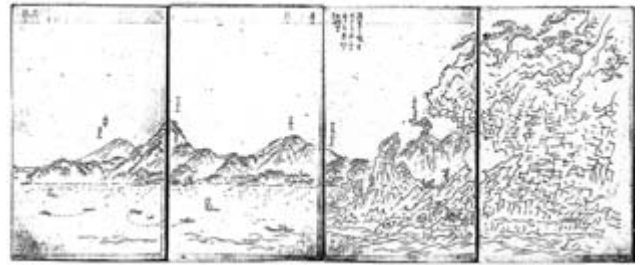
天保十五年八月十九日
豆州大瀬サキヨリ芙蓉ヲ望ム図

この絵は大瀬崎から富士山、愛鷹山、箱根を望み、夏の陽射しに輝く駿河湾には荷物を搬送しているであろう帆を張った船が何艘か行きかう様子が描かれている。これらの船は、沼津に荷物を運んで来たのであろうか、それとも沼津からの物資を何処かに運ぼうとしているのであろうか。

この絵を通じて当時の沼津の海の賑わいをうかがうことができる。

向かって左側にたくさんの樹木が描かれているが、これは千本松であろう。

次の絵には描いた日付が記載されていないが、前後の絵から、八月十日前後と思われる。



駿豆之境 字犬クヘリ亦三ツ石トノ方眺望

遠くに富士山、鷲頭山を描き、口野村の魚見小屋、多比の集落等も詳細に描かれている。

海には帆を張った大きな船と、漁をしている小さな船が描かれているが、小船と小船の間に網のようなものが描かれ、当時の漁の形がよく判る。

また魚見小屋の下に人が描かれているが、これは魚の動きを見ているのであろう。

次の絵の図1は、馬込浦から鷲頭山を見た図で、馬込の集落の背景に鷲頭山が描かれている。

図2は、足立春島の家から見た北側の窓からの風景として、江の浦の集落、鷲頭山を描いているが、よく見ると、中央の下に春島の家も描かれている。

図3は春島の自宅から南から北へ大瀬崎・多比・江の浦を描いた絵である。

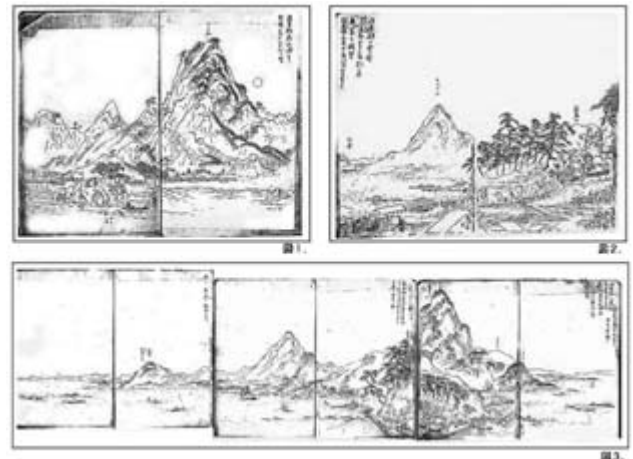


図1 駿東郡馬込浦ヨリ本村及ワシズ山ヲ望ム

図2 駿東郡口野村足立春島翁別荘北窓之眺望
天保十五年甲辰八月五日写真

図3(右)天保十五年甲辰八月六日写真

駿東郡口野村 足立春島翁門前於海濱
石かきの辺 アハシマ及大瀬崎ノ辺与
占眺望之図、南方ヲ望ムノ図也

(中)北西ヲカヘリミル図、同日駿東郡口野村
春島翁宅ヨリ多比ムラ並江ノ浦及ワシズ
山大峰ヲ眺望ノ図

(左)岨ノ廻リ釣船多シ

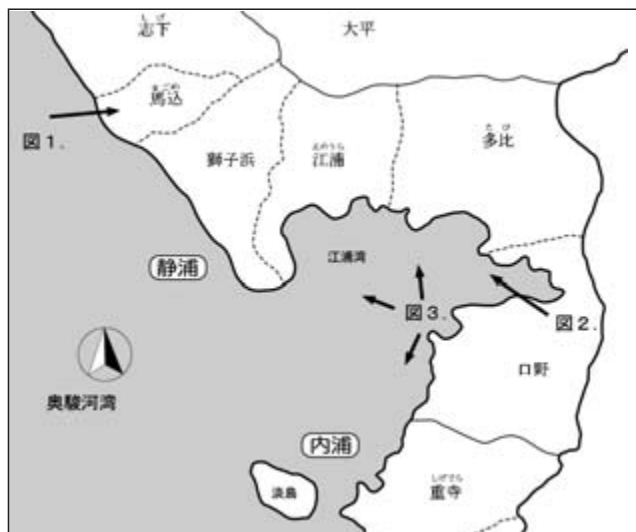
右側では、遠くに大瀬崎、真城山、中央に淡島が左側の中ほどには「口野村分ウラミ」と魚見小屋が描かれているが、金桜山下に春島の自宅も描かれている。

中の絵は鷲頭山を中心に江の浦湾には千石船と思われる大きな船が停泊している。

前号でもお話したが、当時の沼津では狩野川に河岸があり、大きな船は江の浦湾に停泊して、小船で荷物を河岸まで搬送していた様子がこの絵からも見て取れる。

左側の絵には釣りをしている船が何艘か描かれ、海運と共に漁が盛んであった当時の江の浦湾の様子をよく表している。

この地図は図1～図3を、何処の場所から何処を描いたかを表したのもので、こうしてみると良く理解してもらえらると思う。



(話：足立 実 氏 沼津市口野在住)

資料館からのお知らせ

西浦江梨の雨乞いについて

今回の「資料館の調査ノートから⑮」では、西浦江梨の雨乞いについて掲載させて頂きました。

これは、かつて実際に雨乞いに参加された杉山博子さん、大川君江さん、そしてその様子を写真に残された杉山栄一さんにお集まり戴き、お話をお伺いさせて頂いたものです。

各地域で傳承されている行事・風習等を教えて戴き、記録していくことが、郷土を知ることに繋がります。

雨乞いという言葉は知っていても、実際には何時頃、どのように行うのか、雨乞いのお経とはどのようなものか、詳しいことは判りませんでした。

今回のお話しは初めてお聞きする話で、大変興味深いものがありました。

資料館では郷土に伝わるいろいろな資料を収集・展示すると共に、地域に伝わるいろいろな風習・民俗を取材・記録し、皆さんにお知らせしています。

これからも先人達が伝えてきた風習・民俗の掘り起こしに力を注ぎ、しっかりと後世に伝えてまいります。

お忙しい中、雨乞いについてお教え戴いた皆様、貴重なお話をお聞かせ戴いた皆様に、心から感謝申し上げます。

春はすぐそこまできています

寒に入り、1年で寒さが最も厳しい時期になりました。

でも御用邸記念公園では水仙が花を咲かせ、梅林では蕾が膨らみ、花を咲かせるのを今や遅しと待っています。

御用邸旧正面入り口にある寒緋桜の蕾も膨らんできたような気がします。

御用邸西附属邸では「桃の節句 雛飾」が開催されます。

もうすぐ節分、そして立春です。

春はもうそこまできています。

沼津市歴史民俗資料館だより

2009.1.25 発行 Vol.34 No.3 (通巻184号)

編集・発行 〒410-0822 沼津市下香貫島郷2802-1

沼津御用邸記念公園内

沼津市歴史民俗資料館 TEL 055-932-6266

FAX 055-934-2436

URL:<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sisetu/rekimin/index.htm>

E-mail:cul-rekimin@city.numazu.shizuoka.jp